



●再出発でさらなる発展を

(財)名古屋市工業技術振興協会

会 長 松尾 隆徳

足かけ2年に渡った不況も回復期に入ったが、中小企業にとってみると、まだまだ厳しい環境下にあります。ここはひとつ「中小企業だから回復が遅れているのではなく、自分達の回復への努力が不足しているから、まだ不況なのだ。」と断定し、自分の足元を見直そう。今回の苦しみを薬として「好況の時こそ、次の不況への準備を行い、不況期にその成果を確認する。」というサイクルに転換しよう。不況は必ず脱する。同時に好況も必ず来て、不況につながる。(治にいて乱を忘れず)

今春、4月発行の本誌でもお知らせしましたが、私共の(財)名古屋市工業技術振興協会(名工振)は、8月末をもって業務を終結し、9月1日付にて(財)名古屋都市産業振興公社と合併、統合し新名称、(財)名古屋産業振興公社のもとで業務が継続されます。今までの市内外の中小企業者、賛助員の皆さんに提供してきた技術サービス、その結果としての市内外のものづくり中小企業の発展に貢献してきた事実を誇りとし、新しい組織体のもと、新しい協力者も得て、頑張っ

て参りましょう。中小企業の果す役割は大変なものがあり、サポートインダストリーとして基幹産業を支える中小企業でなければなりません。量より質、独自性を高め、他にないオンリーワン企業を目ざせば、経営者ばかりでなく、働く社員の人も生き

がい、働きがいを感じ社会に貢献する企業となります。(基幹産業にサポートされる中小企業では、意味がなく、使い捨ての繰り返しであることは歴史の示す通り。)そのため、私達は中小企業といえども、何時の世にも変らぬ経営理念、経営論理、経営道をしっかり確立し、片や時代の変化に追従する柔軟な経営戦略・戦術を変えつづける必要があります。(易・不易の区分け)変化せねばならない戦略・戦術のうち、技術分野の変化のために、名工振、これからは(財)名古屋産業振興公社を多いに活用し、技術力、製品力の強化に、新事業分野の拡充に励んで下さい。

財団化以来30年間、前身の協会設立以来約60年間、諸先輩が築かれた名工振、それを支える市内外中小企業者・賛助員の集まり・結合は全国に誇れるものでありました。諸先輩のご努力に感謝を申し上げます。名工振は新しい姿で、再出発です。更なるご支援で活用をはかり、私達の故郷「名古屋」の発展の一助を担いましょう。